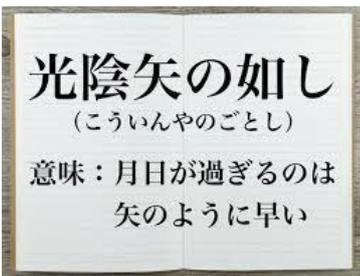




「光陰矢の如し」 時間の心理的な長さは年齢に反比例!?



年末が近づくにつれて、「もう1年経つのか…!?’と、時の流れの早さに驚いている人も多いことでしょう。

時間が過ぎるのが早く感じる理由として、最も有名なものに、フランスの哲学者ポール・ジャネが発案した「ジャネーの法則」があります。生涯のある時期における時間の心理的な長さは、年齢に反比例する（年齢を重ねると体感時間が短く感じる）と

いうものです。この要因の一つとして、「生活に新鮮味がなくなる」ということが挙げられます。子どもの頃は、毎日が新しい経験や発見をします。しかし、大人になると毎日同じような日常の繰り返しに慣れてしまうことで、時間の流れを早く感じるようになってしまうのでしょうか。

マンネリから抜け出すには、「いつもより早く起きる」「普段より明るい声で挨拶をする」「経験したことのない趣味に挑戦する」など、新しいことに目を向けてみると良いかもしれません。新鮮味を感じる充実した毎日を過ごせるように努めたいものです。



温暖化対策 21世紀末の世界平均気温が約3~5度上昇



寒さが日増しに厳しくなる時期ですが、地球温暖化が進んでいることも忘れてはならないでしょう。

夏を迎えると、毎年のように最高気温を更新しています。それだけに地球は温暖化しているのです。冬においては、積雪量が減った地域が増えています。

環境省の将来予測によると、20世紀末（1986年～2005年）に比べて、21世紀末（2081年～2100年）の世界の平均気温が約3~5度上昇するというデータが出ています。厳しい温暖化対策を講じたとしても、世界の平均気温が少なくとも上昇する可能性が高いと予測されています。

遠い未来のことでなく、今の私たち一人一人の課題であることを意識しましょう。例えば、冷房・暖房の温度を適切に設定する、レジ袋は使わずマイバッグを持つなど、小さな努力を積み重ねることが大切です。温暖化対策のために、少しでも自分たちにできることを見つけていきたいものですね。

